

実習報告（基盤教育実習）

フロー(flow)を体験する下地作りの保健体育 ー学習者が継続的に楽しさを追求していく道筋を作るためにはー

渡辺 正樹 （授業実践探求コース）

【探究実習のテーマと設定の理由】

探究実習における2年間の研究テーマを「魅力ある授業づくり-フロー(flow)を体験するためには-」とする。最終的な目標として学習者が様々な場面において運動・スポーツを楽しめるという資質・能力を培わせるための授業開発を目的とした。つまり、学習者が継続的に楽しさを追求していく為の道筋を作ることが大切であると考えた。

そこで、楽しさを追求する為にフロー理論を取り上げた。フロー(flow)とは、「1つの活動に深く没入しているので他の何ものも問題とならなくなる状態、その経験それ自体が非常に楽しいので、純粋にそれをするということのために多くの時間や労力を費やすような状態」(Csikszentmihalyi・今村訳.1996)である。

そのため基盤教育実習においてはA中学校における現状の保健体育の授業実施の方法を観察・分析することにより、自身の授業開発のための材料を得ることが目的である。また、図1「フローの条件」より、学習者の挑戦(challenge)水準と能力(skills)水準がどの段階に属しているか判断する。また、来年度の探究教育実習において学習者にフローを体験させることにより、理想の学習者像の実現を計りたいと考える。そのため、基盤教育実習のテーマを「フロー(flow)を体験する下地作りの保健体育ー学習者が継続的に楽しさを追求していく道筋を作るためにはー」とした。また、下地作りとは学習者が自身の挑戦(challenge)水準と能力(skills)水準のバランスを考慮し、課題設定を行えるようになることである。

【探究実習の研究目標】

基盤教育実習の研究目標

- ①学習者の挑戦(challenge)水準と能力(skills)水準の現状把握
- ②抽出児選択のための実態調査・実態把握

【探究実習の概要】

実習先のA中学校にて平成28年10月から平成29年3月までの間、1週間に1回毎週火曜日に実習校を訪問し約半年間、合計200時間の実習を行った。2年生の学年団に所属し、前半は担当のB教諭の授業にT2として参加し授業補助を行った。また、生徒に対しインタビュー調査を行うことで実態把握に努めた。さらに、同時に生徒との人間関係づくりも行った。後半は2年生の保健体育の授業をT1として数時間担当した。そして、1年生と3年生の授業においては全てT2として参加し授業補助を行った。

①保健体育の授業の形態

ティーム・ティーチングの形態をとり、2クラス分の生徒に対し3人の教師のもとで授業が実施さ

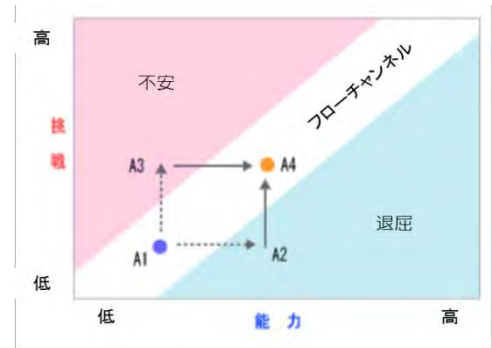


図1 フローの条件

出典；M. チクセントミハイ・今村浩明訳（1996）

フロー体験ー喜びの現象学ー. P95

れた。授業開始5分前に活動場所に集合し学校の外周を1周，準備運動，サーキット・トレーニングを終了後，整列し授業を開始する。また，サーキット・トレーニングでは，全身の筋群を刺激し粘り強さや力強さの発育・発達を視野に入れて構成されている。

②実践した領域・単元（体育分野・保健分野）

表1 実践した領域・単元

体育分野	器械運動①マット運動 ②跳び箱運動 ①②9・10月実施	陸上競技①リレー ②ハードル走 ③駅伝 ①②11・12月実施 ③1月実施	武道①剣道 ①2月実施
保健分野	交通事故の防止	自然災害に備えて	応急手当の意義と基本

【探究実習の成果と課題】

基盤教育実習を通しての成果と課題より，探究教育実習における展望を述べる。

①実習を通しての成果

成果としては，授業力の向上を挙げることができる。授業力の向上の内容としては，生徒の挑戦(challenge)水準と能力(skills)水準のバランスを考慮し，課題設定を行わせることができた。また，授業の際に「～ができる」だけでなく「～ができるようになるために，～を行う」というように，より具体性を持たせて授業を実施することができた。次にインタビュー調査の結果として，活動に対して課題意識を持ち取り組むものが大半を占めていた。しかし，少数の生徒は活動に取り組む事は出来るが，課題意識が希薄であるために単に活動をこなしているだけであった。このことより，課題意識が高い生徒と課題意識が低い生徒のそれぞれにおいて，抽出見選出の候補を絞ることが可能となった。探究教育実習に向けての下地作りと授業実践を行った結果，授業実践を通して身についた授業力を生かして研究授業を行うことが求められてくる。自身の研究として成果を出すことは大切であるが，それと同時に生徒の成長を考慮しなければならない。そのために，十分な計画を練ったのちに実習校と十分に検討して研究授業を実施したい。

②実習を通しての課題

課題としては，生徒との人間関係の構築を挙げることができる。生徒との人間関係に関しては，良好な関係が構築することのできている生徒に対してはより良好な関係づくりを行い，そうでない生徒に対しては，関係の改善を行うことが必要である。そのために，基盤実習終了後の期間には，実習校を訪問する回数を増やすことにより，生徒との人間関係の構築に努めた。また，来年度になると研究授業を実施するまでの期間に体育大会がある。学校における行事を利用し，1つの目標に向かって生徒と共に取り組むことにより，より人間関係を深めたい。

③探究教育実習における展望

成果と課題を踏まえて，研究テーマである「魅力ある授業づくり-フローを体験するためには-」を研究授業として実施するために残りの実習期間を有効に活用し今後の研究を進めていく予定である。自身の研究に関しては，現状の研究目的からさらに研究が深まることが予想される。そのために，随時実習校と連携をしていくつもりである。また，1人の教員として，実習校に貢献できるよう日々努力することが大切であると言える。